

2号機使用済燃料プール内へのPHSの落下について

<概要>

(事象の発生状況)

- ・ 運転中の2号機の使用済燃料プールにおいて、平成22年3月13日に発生した地震後のプラント点検のための現場パトロールを当社社員が実施していたところ、社員が所持していたPHSを誤って使用済燃料プール内に落下させてしまいました。
- ・ PHSを落下させた直後は目視で確認できたことから、準備が整い次第、回収することとしておりました。
- ・ その後、3月14日に再び発生した地震後のパトロールを行ったところ、PHSの所在を確認できなくなりました。

(今後の対応)

- ・ 引き続き、所在不明となっているPHSの所在確認を実施し、燃料への影響も踏まえ回収方法等の検討を行います。また、異物混入対策の確実な実施を行います。

(公表区分)

- ・ 本事象は公表区分Ⅲ（信頼性向上のために公表する事象）としてお知らせするものです。

詳細は以下のとおりです。

1. 事象の発生状況

運転中の当所2号機の原子炉建屋5階使用済燃料プールにおいて、平成22年3月13日午後9時46分頃に福島県沖で発生した地震後のプラント点検のための現場パトロールを当社社員が実施していたところ、3月14日午前0時25分頃、燃料交換機上部から当該社員が所持していたPHS*を誤って使用済燃料プール内に落下させてしまいました。

PHSを落下させた直後、PHSは使用済燃料プール内の燃料の入っていないラック上部にあり、目視にて確認できる位置にあったことから、準備ができ次第、PHSを回収することとしておりました。

その後、3月14日午後5時8分頃に再び福島県沖で地震が発生したことから、地震後のパトロールで落下させたPHSを再確認したところ、PHSが使用済燃料プール内のラック上部にないことを同日午後7時45分頃に確認しました。

そのため水中カメラで所在確認を行いましたが、3月15日午前0時45分現在、確認できておりません。

なお、現在運転中の原子炉とは物理的に隔離されており、炉心に入ることはありません。

2. 今後の対応

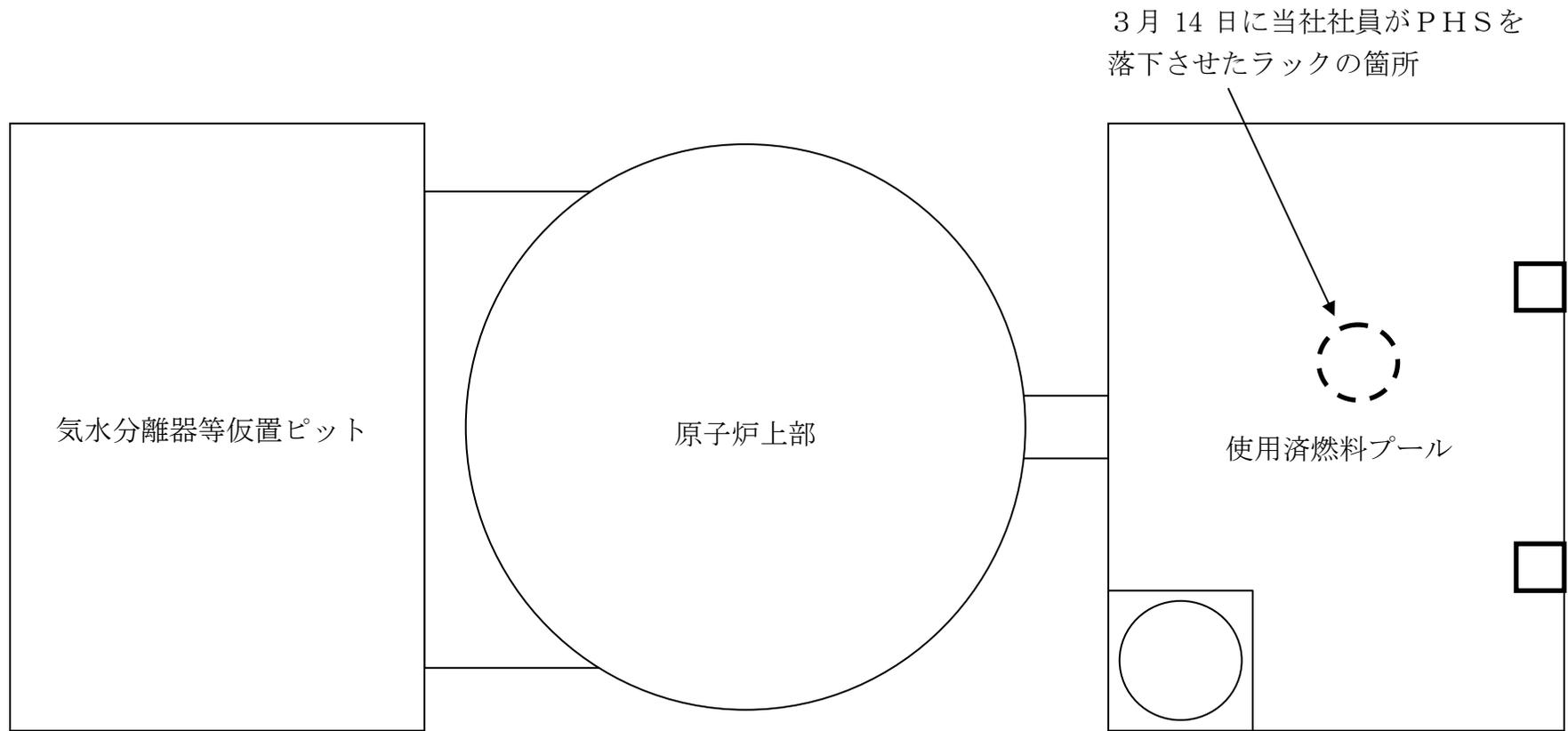
引き続き、所在不明となっているPHSの所在確認を実施し、燃料への影響も踏まえ回収方法等の検討を行います。

また、異物混入対策の確実な実施を行います。

以 上

* 社員が所持していたPHS

発電所内での業務用に、会社より貸与され、使用が許可されている通信機器であり、業務連絡のために放射線管理区域に持ち込んだもの。



原子炉建屋5階平面図